

科目ナンバリング		U-LAS30 20025 LJ13									
授業科目名 <英訳>		情報企業論 Information and Enterprise				担当者所属 職名・氏名		経営管理大学院 教授 松井 啓之 経営管理大学院 特定教授 藤田 哲雄			
群	情報学科目群			分野(分類)		(各論)			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。また、情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報の特徴と情報化が社会に果たす役割と及ぼす影響について、思考を深める。 特に将来グローバルな仕事への従事希望者、ハイテク産業の行政、投資・評価、コンサルティングの希望者、起業志向者、大企業やスタートアップのキーマネジメント志向者、経営管理などに興味をもつ学生にとっては、ITインフラ、サービス関連の全体概要と最新動向に触れる機会を提供する。 受講者が目的意識をもって今後の専門領域を学習でき、卒業後に実践的な応用ができることを講義目的とする。当該領域で活躍中の第一線専門家による講義も予定している。											
[到達目標]											
情報化が社会に及ぼす影響を理解し、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する能力を養い、情報社会に積極的に参画する能力の獲得を目指す。また、価値の創出（クリエイティブ・デザイン）と価値の良さがわかる（サービス・リテラシー）人材の教育を行う上での基礎知識を習得する。											
[授業計画と内容]											
< 講義スケジュール例 >											
イントロダクション											
エスノグラフィ(参与観察)											
エスノグラフィ(分析)											
サービスデザイン											
サービスデザイン											
企業活動と情報システム/社会のデジタル化											
企業活動と情報システム/デジタル化を支える基礎技術											
企業活動と情報システム/デジタル化を支える応用技術											
企業活動と情報システム/ビジネスアナリティクスとAI											
産業のサービス化											
デジタルトランスフォーメーション（DX）											
マーケティング（理論とケース）											
ナレッジ・マネジメント（理論とケース）											
ゲスト 事例紹介「脳科学をビジネスに」											
フィードバック											
----- 情報企業論(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----											

情報企業論(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

情報活用社会に対する社会背景、現状分析、課題の認識、解決アプローチ等の習得を目的とし、その習得程度を評価する。評価の方法としては、授業への積極的参加 (20%)、レポート課題(4回、合計で80%)とする。

[教科書]

教科書は指定しない。

授業で用いるものは、適宜配布する。

[参考書等]

(参考書)

小林潔司、原 良憲、山内 裕『日本型クリエイティブ・サービスの時代 「おもてなし」への科学的接近』(日本評論社) ISBN:978-4-535-55799-4

下記記載の参考書は、授業の一部の概要を知るための参考資料である。他の参考書に関しては、授業中に適宜指示を行う。

[1] David A. Kaplan, The Silicon Boys: And Their Valley of Dreams (邦訳: デイビッド・A・カプラン, シリコンバレー・スピリッツ, ソフトバンクパブリッシング), 2000

[2] ジョー・ティッド他, イノベーションの経営学, N T T 出版, 2004 Lewis Branscomb and Philip Auerwald, Between Invention and Innovation, NIST GCR 02-841, 2002

[3] Geoffrey A. Moore, Crossing the Chasm (邦訳: ジェフリー・ムーア, キャズム, 翔泳社, 2002)

[4] Clayton Christensen, The Innovator's Dilemma (邦訳: クレイトン・クリステンセン, 翔泳社, 2000)

[5] Clayton Christensen, Seeing What's Next (邦訳: クレイトン・クリステンセン, ランダムハウス講談社, 2005)

[6] ダンカン・ワッツ, スモールワールド・ネットワーク, 阪急コミュニケーションズ, 2004

[7] アルバート・バラバシ, 新ネットワーク思考, 日本放送出版協会, 2002 公文俊平, 情報社会学序説, N T T 出版, 2004

[8] クレイトン・クリステンセン, 明日は誰のものか, ランダムハウス講談社, 2005 クリス・アンダーソン, ロングテール, 早川書房, 2006

[9] ヘンリー・チェスブロウ, 「Open Innovation」, 産業能率大学出版部, 2004

[10] スティーブ・Y・西浦, 「リテンションストラテジー」, かんき出版, 2001

[11] Timmons, et al., "New Venture Creation - Entrepreneurship for the 21st Century - ", McGraw-Hill Irwin, 2006

[12] John L. Nesheim, "High Tech Start Up", The Free Press, 2000

[授業外学修(予習・復習)等]

前回受講のハンドアウトの復習。参考書籍の事前学習。

[その他(オフィスアワー等)]

受講者が目的意識をもって今後の専門領域を学習でき、卒業後に実践的な応用ができることを講義目的とする。

開講時限の前後の1時間を原則としてオフィスアワーとする。その他の時間についてはメールによるアポイントを経ることとする

情報企業論(3)へ続く↓↓↓

情報企業論(3)

[主要授業科目（学部・学科名）]